

8/30 五夜

東京・上野の国立科学博物館（科博）が標本の保管にかかる電気代高騰などによる資金のひっ迫を訴え、「クラウドファンディング（CF）」を実施し、7億円を超える寄付が集まりました。CF開始から一ヶ月足らずで目標一億円を大幅に上回りました。同館の苦境に多くの人が衝撃を受け、呼びかけに応じたと言われます。

国立の博物館である、基本的な運営資金に事欠く事態に陥っていることは大問題です。資金に苦しむ博物館は全国各地にあります。自然環境や科学・技術・芸術文化の保護や継承にかかる国のもと、資金が問われています。

「お寒い現状」は各地に科博は、化石や動植物などの標

主張

博物館の資金難

本や資料を200万点以上収集・保管しています。膨大な数の標本などを万全のコンディションで保つには、温度や湿度の適切な管理が必要です。例年、億円前後の光熱費がかかりますが、今年度は2倍に膨らむと見込まれています。

「ロト・福の入場料収入の落ち込

文化財を取り巻く「お寒い現状」を明らかにしました。所蔵している文化財を適切な環境で保管し、修理修復する作業が物価高騰で困難になつていて、政府に現状を訴えて予算増額を求めて「ゼロ・査定」にされたという先例です。

科博も東博も独立行政法人としているのです。各文化施設は自己

収入を増やす競争をめぐる中、国費の支出を抑制する組合です。国は22年、科博や東博など「国立文化施設」の独立化、「門口収入を増やすインセンティブ」強化の仕組みを導入しました。運営費交付金に「競争的資金枠」を設け、入場料収入やCFをはじめ寄付金の増加率に応じて再分配を行うと充実する」と求めています。

19年の文化庁の全国調査では「資料購入予算がない」と答えた博物館は過半数で、郷土博物館の約70%、歴史博物館の約60%が競争的資金を強いる現実が浮き彫りになりました。多くの学園の運用も不安定です。各施設の自助努力任せでできません。

みもあり、資金的な危機に直面して運営され、それぞれ年20億～25億円と使つ事業費の削減、職員が使用する研究費の返還を求める声を得ない状況も生まれました。東京国立博物館（東博）も同じ状況です。同館の藤原誠館長は「文部省春秋」2023年2月号で、「國庫をめぐる予算が足りない」と

未来に引き継ぐ責任を明瞭化しました。所蔵している文化財を適切な環境で保管し、修理修復する作業が物価高騰で困難になつていて、政府に現状を訴えて予算増額を求めて「ゼロ・査定」にされたという先例です。各文化施設は自己収入を増やす競争をめぐる中、国費の支出を抑制する組合です。国は22年、科博や東博など「国立文化施設」の独立化、「門口収入を増やすインセンティブ」強化の仕組みを導入しました。運営費交付金に「競争的資金枠」を設け、入場料収入やCFをはじめ寄付金の増加率に応じて再分配を行うと充実する」と求めています。

19年の文化庁の全国調査では「資料購入予算がない」と答えた博物館は過半数で、郷土博物館の約70%、歴史博物館の約60%が競争的資金を強いる現実が浮き彫りになりました。多くの学園の運用も不安定です。各施設の自助努力任せでできません。

自然科学、文化、芸術、産業をめぐる未来どうぞ「寒」を守る役割の放棄を等しいものだ。これは国の大きな責任です。